

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
山陰中央専門大学校	2006年2月9日	西田 忠男	〒690-0001 鳥根県松江市東朝日町75-12 (電話)0852-31-5500																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人坪内学園	1969年11月8日	坪内 浩一	〒690-0001 鳥根県松江市東朝日町74 (電話)0852-31-1500																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
工業	工業専門課程	自動車総合学科2級自動車整備士コース	2007年文部科学省 告示第20号	-																											
学科の目的	自動車業界の要望に応えた専門的な教育により、職業人(自動車整備士)として必要な知識及び技能を習得させるとともに、国家資格や各種資格を取得させ、自動車業界に貢献できる優秀な人材を育成する。																														
認定年月日	2014年3月31日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	昼間	94	54	0	40	0	0																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
50人	23人	11人	3人	2人	5人																										
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、課題などの評価資料に基づいて総合的に定める。基準は次の通り。 「A(優)」90～100 「B(良)」80～90 「C(可)」70～80 「D(不可)」70未満																										
長期休み	■学年始:4月1日～4月8日 ■夏 期:7月31日～8月31日 ■冬 期:12月28日～1月5日 ■学年末:3月20日～3月31日		卒業・進級条件		・卒業:2019年度入学生は92単位以上 2018年度入学生は94単位以上 の教育時間数を修得すること。 ・進級条件:各年度に設定された単位及び教育時間数を修得すること。																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任などによる面談・保護者面談を行っている。又、必要と思われる学生に対し、随時、個別面談を行っている。		課外活動		■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 ボランティア活動・部活動(サークル活動)・学校行事実行委員会 ■サークル活動: 有																										
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(2019年度卒業生) 自動車販売及び自動車整備業界 ■就職指導内容 授業科目を事業所関連とし、施設種の説明、履歴書や自己紹介書の指導・就職ガイダンスの開催を行っている。また、計画を立て、全学生の面接練習を行っている。 ■卒業生数: 21 人 ■就職希望者数: 21 人 ■就職者数: 21 人 ■就職率: 100 % ■卒業者に占める就職者の割合: 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 ( 2019年度卒業生に関する 2020年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (2019年度卒業生に関する2020年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級自動車整備士受験資格</td> <td>②</td> <td>21人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>アーケ溶接等業務特別教育</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>低圧電気取扱業務特別教育</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>中古自動車査定士</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定 ジョブパス3級</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>20人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 特になし			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級自動車整備士受験資格	②	21人	20人	アーケ溶接等業務特別教育	③	21人	21人	低圧電気取扱業務特別教育	③	21人	21人	中古自動車査定士	③	18人	13人	ビジネス能力検定 ジョブパス3級	③	21人	20人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
2級自動車整備士受験資格	②	21人	20人																												
アーケ溶接等業務特別教育	③	21人	21人																												
低圧電気取扱業務特別教育	③	21人	21人																												
中古自動車査定士	③	18人	13人																												
ビジネス能力検定 ジョブパス3級	③	21人	20人																												
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0% 2019年4月1日時点において、在学者39名(2019年4月1日入学者を含む) 2020年3月31日時点において、在学者39名(2020年3月31日卒業生を含む) ※年度途中に1級コースへ0名編入 ■中途退学の主な理由 中途退学者なし ■中退防止・中退者支援のための取組 随時面談や家庭訪問を実施するなど、学校、学生、学生保護者の連携を密にしている。																														
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 (2019年度入学生対象) ①学校推薦型選抜入試 指定校推薦型(入学金50,000円～100,000円免除:初年度のみ) ②学校推薦型選抜入試 一般推薦型(入学金20,000円免除:初年度のみ) ③坪内学園修学支援金(授業料の一部50,000円～100,000円を付与、10名程度/2年進級時に新たに採用募集・審査あり) ④一般選抜入試併願型(併願料30,000円は入学金もしくは授業料の一部に充当する) ⑤父母兄弟姉妹奨学金制度(入学金の一部50,000円免除:初年度のみ) ⑥坪内学園グループこども総合学科奨学金給付制度(400,000円/年) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
当該学科のホームページURL	https://sicc.sctg.ac.jp/																														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生の主な就業先である自動車業界における人材の専門性に関する動向、社会情勢、また企業等の成長や変化に伴い必要となる新たな、知識、技能等を企業等との連携により授業カリキュラム内に取り入れる。  
企業等参加の公開授業の実施・授業後のアンケート及び意見交換、学生の実務実習、教員研修といった授業・実習・研修を介して、企業等の意見・要請を得る。この意見・要請を基に、教育課程編成委員会により、現場と温度差のない、専門的で実践的な職業教育を行うための授業内容及びカリキュラムを作成していくことを目的とし、基本方針に掲げている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教職員研修会により研修(校内教職員研修、公開授業企業参観、教員インターンシップ、関係者団体研修、専修各種学校関連団体等研修)の実施結果を踏まえ、学科教員でカリキュラムの見直し案を作成。研修結果及び教員からの意見に加え、業界の動向や本校関係諸情報の収集等をし、年に2回開催される教育課程編成会議(教育課程編成委員で構成)にて図る。会議で出されたカリキュラム改善に対して意見をご提案頂き、組織として教育課程の編成に反映させることを検討し決定したものについては導入。今以上に実践的な教授内容を実施する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2020年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
舟木 誠一	一般社団法人 島根県自動車整備振興会	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	①
北川 裕二	島根日産自動車株式会社 株式会社日産サテオ島根 日産プリンス鳥取販売株式会社	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	③
川島 広明	島根中央ホンダ販売株式会社	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	③
坪内 浩一	学校法人 坪内学園 山陰中央専門大学校	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	
西田 忠男	学校法人 坪内学園 山陰中央専門大学校	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	
小山 裕貴	学校法人 坪内学園 山陰中央専門大学校	2020年4月1日～ 2022年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (10月、2月～3月)

(開催日時(実績))

2013年度	10月25日	15:00～16:20	2月4日	14:00～15:00
2014年度	10月1日	15:30～16:30	2月2日	15:30～16:30
2015年度	10月30日	15:30～16:30	2月3日	15:30～16:30
2016年度	10月31日	15:30～16:30	2月16日	15:30～16:30
2017年度	10月18日	15:30～16:30	2月19日	15:30～16:30
2018年度	10月12日	9:30～10:30	2月1日	15:00～16:00
2019年度	10月17日	16:45～17:45	3月19日	10:00～11:00
2020年度	10月、2～3月頃実施予定			

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会において「生み出す喜びを感じられる」授業の内容の工夫について意見が出た。具体的な例として、発泡ウレタン(車の外装を自由にカスタムできる素材)を作り、外装部品を削り出す作業をする等の取り組みを行う予定である。また、学生が自主的に学び主体性を身に付けることを目指すこと、また、留学生の学習の支援の充実が必要という助言があったため、授業内容を工夫し、さらに補習内容・方法の改善を検討中である。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

インターンシップを導入し、就業体験を通して産業界の実情に触れ、就職の意識を高め、学習への理解、専門分野の能力を伸ばすことを基本方針としている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本校と企業が協定書を締結し、学生は自動車整備工場(認証工場)で指導を受けながら、インターンシップとして3日間現場で学習し、学校で学んだ理論と技術を直接実践の場で体験学習することで理解を深めている。日々の業務内容や反省点などを学生自身で記録し、加えて実習先担当者よりそれぞれの学生が指導を受けると共に毎日の日誌に評価を記入していた。その結果に基づいて次の学習へと繋げている。さらに、体験し学んだ内容をまとめ、後日授業にて発表し、学習の理解を深めている。最新の自動車の技術講習、CS講習を自動車メーカーや近隣の自動車会社より講師として来校いただき、実施していただいている。技術講習では最新の技術を採用している自動車に実際に触れることで、その仕組みや取り扱いの方法を学び、CS講習ではより現場に則した接客や自動車の取り扱いの知識や方法を学ぶことができている。これらのインターンシップや講習を通じて学んだことは、授業の際に生かされ、挨拶、作業の方法や自動車の取り扱い等、学生がお客様を意識できるようになっている。

科目名	科目概要	連携企業等
工業・社会Ⅰ	郊外で体を動かし、学生間の親睦を深める。技能コンクールでは正しい作業方法、短時間で整備することを目指す。また、就職では履歴書、面接などの指導を行う。	島根トヨタ自動車株式会社、島根日産自動車株式会社、ホンダ山陰中央株式会社、島根日野自動車株式会社、株式会社ススキ自販島根など
体験実習Ⅰ	実際の現場(認証工場)で車両の点検整備、記録簿の記入、納車準備を行う。また、作業効率の向上方法を自ら考え、次の作業に生かす。インターンシップを通して学びを実践する。	島根トヨタ自動車株式会社、島根日野自動車株式会社、トヨタカローラ鳥取株式会社、山陰スバル株式会社、いすゞ自動車中国四国株式会社、株式会社ヤナセ
体験実習Ⅱ	実際の現場(認証工場)で車両の日常的な整備や高難度整備作業を通じ、故障原因探求を行い、正確かつ迅速に故障箇所の判定をする方法を身につける。	島根トヨタ自動車株式会社、島根日野自動車株式会社、トヨタカローラ鳥取株式会社、山陰スバル株式会社、いすゞ自動車中国四国株式会社、株式会社ヤナセ
体験実習Ⅲ	実際の現場(認証工場)で総合診断(自動車整備に関する総合診断、応酬話法)の方法を学ぶ。	島根トヨタ自動車株式会社、島根日野自動車株式会社、トヨタカローラ鳥取株式会社、山陰スバル株式会社、いすゞ自動車中国四国株式会社、株式会社ヤナセ
高度工業・社会Ⅰ	業界研究やインターンシップを通して学びを学習する「企業マーケティング」、学生間の親睦を深める「スポーツ大会」、正しい作業と短時間の整備を目指す「技能コンクール」、履歴書作成や面接指導を受ける「就職授業」を実施する。	島根トヨタ自動車株式会社、島根日産自動車株式会社、ホンダ山陰中央株式会社、島根日野自動車株式会社、株式会社ススキ自販島根など

<p>3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係</p>
<p>(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記  教員に対し、企業・関係施設・業界団体等との連携を通じ、現場の最新の知識及び技能を修得させるとともに、職務の遂行に必要な能力及び資質等の向上を図ることを目的とした研修のために年間計画を立てて実施していくことを基本方針とする。</p>
<p>(2)研修等の実績</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「整備主任者研修」(連携企業等:一般社団法人 自動車整備振興会)  期間:2019年8月19日(月) 対象:安食泰孝  内容:整備主任者が行う業務に必要とされる自動車の構造・機能を学び、教員、学生に情報提供を行う。</p> <p>研修名「整備主任者研修」(一般社団法人 自動車整備振興会)  期間:2019年10月15日(火) 対象:安食泰孝  内容:保安基準適合性の確保等、整備主任者が行う業務に必要とされる関係法令、主要通達等を学び、教員、学生に情報提供を行う。</p> <p>※教員インターンシップは2年に一度実施。</p>
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「本校教員対象の公開授業」(連携企業等:島根中央ホンダ販売株式会社 川島 様、島根ダイハツ販売株式会社 神田 様)  期間:2019年12月13日(金) 対象:小山裕貴  内容:高度サービス・マネジメントⅡ  授業公開後、教員の教授方法や授業内容などについて、企業関係者より意見をいただく。</p>
<p>(3)研修等の計画</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「本校教員対象の公開授業」(連携企業等:一般社団法人 自動車整備振興会、島根日産自動車株式会社)  期間:2020年12月11日(金) 対象:小山裕貴  内容:高度サービスマネジメントⅡ  授業公開後、教員の教授方法や授業内容などについて、企業関係者より意見をいただく。</p>
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「研究レポート」  (連携企業等:一般社団法人 自動車整備振興会、島根日産自動車株式会社、島根中央ホンダ販売株式会社)  期間:2020年6月～ 対象:学科教員全員  内容:専門分野に関連する研究レポートを作成し、校内研究レポート発表会(経過報告可)を経て、2月の教育課程編成委員会にて報告予定。</p> <p>研修名「教員研究公開授業」  (連携企業等:一般社団法人 自動車整備振興会、島根日産自動車株式会社、島根中央ホンダ販売株式会社)  期間:2020年12月予定 対象:企業(法人)関係者、校長、教頭、学科教員、多学科教員  内容:専門分野に関連する研究レポートを作成し、校内研究レポート発表会(経過報告可)を経て、2月の教育課程編成委員会にて報告予定。</p>

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

教育活動その他の学校運営について、目標の達成状況や取組の適切さなどを評価し、学校としての組織的、継続的な改善を図ること、評価結果の公表・説明責任を果たし、企業、保護者、地域住民などから理解と参画を得て、学校・企業・団体・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること、評価結果に応じて改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保障し、その向上を図ることを目的とし、基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準1教育理念・目標・育成人材像
(2)学校運営	基準2学校運営
(3)教育活動	基準3教育活動
(4)学修成果	基準4教育成果
(5)学生支援	基準5学生支援
(6)教育環境	基準6教育環境
(7)学生の受入れ募集	基準7学生の募集と受け入れ
(8)財務	基準8財務
(9)法令等の遵守	基準9法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	基準10社会貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

教育活動及び学校運営において委員から評価は概ね高く、今後もひきつづき、より職業実践に即した教育活動及び学校運営となるよう意見を頂戴している。意見の活用状況については、アクティブラーニングによる指導を授業だけでなく放課後の補習でも取り入れ、指導のさらなる充実を目指している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

2020年 6月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
講武 直樹	松江市役所 総務部	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	地域の地方公共団体の関係者
舟木 誠一	一般社団法人 島根県自動車整備振興会	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	学校の専門分野における業界関係者
今井 亜彩	社会福祉法人 坪内宝珠会	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	学校の専門分野における業界関係者
諏訪 方宣	社会福祉法人 松江市社会福祉協議会	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	学校の専門分野における業界関係者
永島 一雄	学校法人 永島学園	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	中学校、高等学校等の校長、進路指導担当者等
日野 修一	昭商事株式会社	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	地域住民
狩野 俊子	山陰中央専門大 山陰中央専門大 保護者代表	2020年4月1日～ 2021年6月30日(1年)	保護者代表
錦織 澄	税理士法人錦織会計事務所	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	学校運営に関する専門家
田中 健	ネットヨタ島根株式会社	2019年4月1日～ 2021年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <https://sicc.sctg.ac.jp/>

公表時期: 常時

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業との連携にあたり、本校ホームページ等にて、建学の精神、教育目標、学生のキャンパスライフなどに加え自己評価結果等を公表し情報提供している、また、学校行事である山陰中央フェスタや公開授業にご参加いただき、アンケートの実施、意見交換などを行うことで本校の情報を提供している。情報提供することにより、企業等の関係者が本校についての理解を深めるとともに、学校がより実践的な学習の場となることを目的及び基本方針として位置付けている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●建学の精神、学科教育目標、学年教育目標、特色</li> <li>●校長名、所在地、連絡先等</li> <li>●学校の沿革</li> <li>●その他諸活動に関する計画(就職活動計画、年間行事計画)</li> </ul>
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>●入学者に関する受け入れ方針、入学者数、収容定員、社会人入試</li> <li>●カリキュラム(科目、単位、授業時数)</li> <li>●進級、卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準など)</li> <li>●取得目標資格、検定</li> <li>●就職内定率、卒業後の進路(就職先)</li> </ul>
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教員氏名、専門性(一部)</li> </ul>
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業には実践に即した教材を使用</li> <li>●介護福祉士他、専門士の取得を目指す</li> <li>●実習授業の実施</li> <li>●就職支援等への取組み(校外企業ガイダンス実施、企業等との連携による具体的な取組(介護実習))</li> </ul>
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校行事への取り組み状況(坪内学園スマイルフェスタ)</li> <li>●課外活動(ボランティア活動、部活動)</li> </ul>
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学生支援の組織(クラス担任制)</li> <li>●学生支援への取組状況(学生会館の整備)</li> </ul>
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学生納付金の取扱い(金額、納入時期等)</li> <li>●活用できる経済的支援措置の内容など(奨学金制度、教育訓練給付金制度、学資支援制度、学校独自の各種減免制度)</li> </ul>
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>●収支計算書、貸借対照表(HPで公開)</li> </ul>
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自己評価、学校関係者評価の結果</li> <li>●評価結果を踏まえた改善方策</li> </ul>
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) ( )

URL:<https://sicc.sctg.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業分野専門課程 自動車総合学科) 2019年度入学生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自動車工学Ⅰ	3級整備士及び2級2輪整備士として必要な自動車の基本的な構造、作動を理解する。また、技術革新により必要とされる電気の基礎を学ぶ。	1通	82	9	○			○	○			
○			自動車工学Ⅱ	3級整備士として必要な自動車の基本的な構造、作動を理解する。また、技術革新により必要とされる電気の基礎を学ぶ。	1前	23	2	○			○	○			
○			自動車工学Ⅲ	3級整備士として必要な自動車の基本的な構造、作動を理解する。また、技術革新により必要とされる電気の基礎を学ぶ。ハイブリッド車を取り扱うために必要な低圧電気の資格を取得する。	1後	27	3	○			○	○			
○			自動車工学Ⅳ	自動車の各装置の構造、機能など基礎的な知識と共に、使用される材料、油脂、力学などを学び、2級自動車整備士に必要な専門的な知識を習得する。技術革新により必要とされる電子制御技術を学ぶ。	2前	85	9	○			○	○			
○			自動車整備Ⅰ	自動車の基本的な構造、作動を良く理解したうえで、ものを考え、現物を分解・組み付け・点検・調整の基礎を学ぶ。	1後	20	2	○			○	○			
○			自動車整備Ⅱ	2級整備士として必要なエンジンの点検・整備を理解する。また、技術革新により必要とされる自己診断システムを利用した点検について学ぶ。2級整備士として必要なシャシの点検・整備の方法を理解する、不具合現象から不具合箇所の診断・点検・整備について学ぶ。	2後	40	4	○			○	○			
○			自動車整備Ⅲ	2級整備士として必要な電装品の構造・作動を理解する。各種測定機器を利用した点検、性能試験の結果から故障箇所を判定する方法を学ぶ。2級整備士として必要な故障診断の方法を理解する。的確な問診、現象の確認、原因の推定及び再発の防止について学ぶ。	2後	46	5	○			○	○			
○			機器の構造・取扱	測定機器の構造、用途及び精度について理解する。また、工作機器の構造、使用方法及び危険性について学ぶ。サイドスリップテスト・ブレーキテストなど自動車の検査、点検に必要な機器の種類、構造などの基礎的な知識と取り扱いについて学ぶ。	1通	19	2	○			○	○			
○			自動車検査	24か月定期点検の点検・検査項目について学ぶと共に、各検査項目の目的について理解を深める。また道路運送車両法の保安基準について学ぶ。	2前	14	1	○			○	○			
○			自動車整備に関する法規	道路運送車両法の自動車の検査・点検・整備の基準など自動車に関連した法規制を学ぶ。	2前	14	1	○			○	○			
○			工作作業	工作機器の使用方法を理解し、安全で正確に使用できるようにする。適した工作機器を選択し正しい方法で使用できるようにする。	1前	17	1			○	○	○			

○		測定作業	測定機器、精密機器の使用方法を理解し、正確で迅速な測定ができるようにする。それらの保管管理方法も理解する。	1前	25	1				○	○		○			
○		自動車整備作業Ⅰ	適した工具を選択し、正しい方法で使用できる。車両をお客様として意識し、正しい手順で分解・組み付け作業ができるようにする。	1通	92	5				○	○		○			○
○		自動車整備作業Ⅱ	適した工具を選択し、正しい方法で使用できる。車両をお客様として意識し、正しい手順で分解・組み付け作業ができるようにする。	1通	119	7				○	○		○			
○		自動車整備作業Ⅲ	適した工具を選択し、正しい方法で使用できる。車両をお客様として意識し、正しい手順で分解・組み付け作業ができるようにする。	1後	130	7				○	○		○			○
○		自動車整備作業Ⅳ	整備作業に対して自主性を持ち、自ら率先して整備技術の向上を図り応用力のある整備ができるようにする。	2前	68	4				○	○		○			
○		自動車整備作業Ⅴ	整備作業に対して自主性を持ち、自ら率先して整備技術の向上を図り応用力のある整備ができるようにする。	2通	120	7				○	○		○			
○		自動車整備作業Ⅵ	整備作業に対して自主性を持ち、自ら率先して整備技術の向上を図り応用力のある整備ができるようにする。	2後	109	6				○	○		○			○
○		自動車検査作業	基本的な点検・整備ができ、必要に応じて診断機器を使用し故障診断ができ故障原因を発見できるようにする。	2後	30	1				○	○		○			
○		情報処理	基礎的なパソコン操作から学び、その後Excelの基本操作を行うことで、パソコン操作に慣れることができる。一般的なExcelの基礎操作から活用方法まで学ぶことで、社会人として必要なデータ処理技術を養うことができる。	2後	10	1	○						○	○		
○		ビジネススキルⅠ	挨拶や身だしなみなど社会人として必要なマナーを習得する。また、社会情勢に関心を持ち、一般常識を学ぶ。	1前	16	1	○				○		○			
○		サービス・マネジメントⅡ	社会人として知っておかなければならない基礎知識や仕事に対する取り組み姿勢、日常の業務の遂行に欠かせない業務知識などについて学ぶ。	2後	10	1	○				○		○			
○		工業・社会Ⅰ	郊外で体を動かし、学生間の親睦を深める。技能コンクールでは正しい作業方法、短時間で整備することを目指す。また、就職では履歴書、面接などの指導を行う。	1通	33	3	○		△	○	○	○	○			○
○		工業・社会Ⅱ	日頃の授業の成果を技能コンクールとして発表する。予選を行い、上位者はベンチエンジンの故障探求を行う。中古車の買い取り時に必要となる中古自動車販売士の講習を受講、試験を行う。周辺地域の清掃活動や施設でのボランティア活動を行う。	2通	61	6	○		△	○	○	○	○			○
○		キャリア演習Ⅰ	自己分析及びガイダンス等での関連業界に関する情報収集を通して、社会人として必要な知識や仕事へ取り組む姿勢等について学び、職業理解を深める。	1通	14	1	○				○	○	○			○
○		キャリア演習Ⅱ	関連業界に関する情報収集や講話等を通して、社会人として必要な知識や仕事へ取り組む姿勢等について学び、職業理解を深める。	2通	9	1	○				○		○			
	○	実践ボランティア	ボランティアを通して、社会や地域のもつ教育力を有効に活用し、奉仕の精神とコミュニケーション能力、主体性を兼ね備えた人材の育成を図り、社会人としての心構えを育む。	1通	12	1	○						○		○	○
合計					27科目		8280単位時間(							91単位)		



卒業要件及び履修方法	授業期間等	
授業科目の履修又は単位取得の認定について 授業科目の履修の認定又は単位習得の認定は次の条件をともに満たした時に行うものとする。 (1)授業科目の実施授業時間数は、教育科目時間配分と出席時間が指定基準時間数以上出席していること。 (2)試験その他の審査による学習の評価が「C(可)」以上であること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	19 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。